英語の先生の授業準備プロンプト

個人情報は入れない／出力は必ず先生が確かめてから使う

教材の英文を、生徒に合う難しさに書き換える

```
あなたは日本の中学校の英語教師の補助をします。次の英文は私が書いたオリジナルの文章です。これを、次の3つのレベルに書き換えてください。
このクラスの既習語・既習文法は次のとおりです：【使用教科書と年間指導計画に基づく既習事項の一覧】
Level A：やさしい版。1文は原則8語程度。上の既習事項の範囲で書く。
Level B：標準版。1文は原則12語程度。上の既習事項の範囲で書く。
Level C：チャレンジ版。元の文の内容をすべて残す。
条件：語数は目安とし、英語として自然であることを優先してください。各レベルの語数を最後に示してください。元の文にない情報は加えないでください。レベルを下げるときに省いた情報があれば、一覧にして示してください。
英文：【ここに自作の英文を貼る（生徒の名前・学校名・地域が特定できる固有名詞は入れない）】
```

チェック：元の文にない情報や事実の変化が入っていないか、既習事項に合わない語や文法が残っていないか、英語として自然かを、必ず自分で読み比べて直します。教科書本文や市販教材の文章は、そのまま入力しないようにします。

内容理解の発問と答えの例をつくる

```
次の英文について、高校1年生向けの発問を英語で作ってください。
1. 本文に答えが書いてある質問を3つ
2. 本文から推測して答える質問を2つ
3. 生徒が自分の考えや経験を答える質問を2つ
それぞれに、生徒が答えられそうな短い答えの例を英語で付けてください。答えの例は、高校1年生が言えるやさしい英語にしてください。
英文：【自作またはオリジナルの英文（個人情報を含まないもの）】
```

チェック：答えが本当に本文から導けるか、推測の質問に無理がないか、意見を問う質問が生徒の生活に合っていて答えにくい個人的な事情に踏み込んでいないかを確かめます。

パフォーマンス課題のルーブリック案をつくる

```
中学3年生の英語のパフォーマンス課題「町のおすすめの場所を、追加の質問に答えながら紹介する（1人3分）」のルーブリック案を作ってください。
観点は、「内容（理由や具体例）」「やり取りの継続」「正確さ」「相手への伝え方」の4つにしてください。
各観点を3段階で、生徒にも分かる日本語の短い文で書いてください。表の形で示してください。
最後に、生徒に事前に示すときの説明文（日本語、3文程度）も付けてください。
```

チェック：単元の目標や学校の評価規準と合っているか、段階の差がはっきりしていて実際に見取れる文言か、観点別評価の考え方（3観点）とずれていないかを確かめ、学年や同僚と調整します。

スモールトークの話題と先生のモデルをつくる

中学2年生の英語の授業の始めに行う、2分程度のスモールトークの話題を、11月の季節や学校生活に合わせて5つ提案してください。
それぞれについて、
・先生が最初に話すモデル（やさしい英語で4〜5文、過去形と未来表現を中心に）
・生徒に投げかける質問を2つ
・生徒がつまずきそうな表現と、言い換えの例
を示してください。
モデルの話の内容は、私が自分の経験に合わせて書き換えます。

チェック：モデルの話を自分の本当の経験に書き換えます（作り話のままだと、生徒とのやり取りが続きません）。家庭の事情や持ち物の差など、答えにくい話題が入っていないかも確かめます。

ALTとの打ち合わせの英文をつくる

ALTに次の授業の打ち合わせ内容を伝える、ていねいで分かりやすい英語のメッセージを作ってください。
・授業：中学3年生、50分
・目標：生徒が町のおすすめの場所を紹介し、追加の質問に答える
・ALTにお願いしたいこと：最初の5分でモデルを話す（2分程度）／生徒の発表を聞いて、追加の質問を一つする／最後にクラス全体にコメントを一つ
・ALTに避けてほしいこと：難しい語を使った長い質問
箇条書きを使い、最後に質問があれば聞いてほしいと伝える一文を入れてください。
※ALTや生徒の実名、学校名は入れずに作ってください。

チェック：授業の流れや時間が正しいか、ALTへの頼み方がていねいすぎず失礼でもないかを確かめ、送る前に実名や日時を自分で入れます。誤解が生じやすい点は、対面でも一言確認します。

フィードバックの文例をつくる

高校1年生の英語の意見文で、次の誤りが多く見られました。
1. 主語と動詞の一致（He have など）
2. 理由を because だけで一文にしてしまう（Because it is fun. のみの文）
3. 主張と結論が食い違っている
それぞれについて、生徒に返すコメントの文例を、
・よかった点を認める一文
・誤りに気付かせる問いかけ（答えは書かない）
・次に試してほしいこと
の3つの部分で、日本語と英語の両方で作ってください。
※生徒の作品そのものや氏名は入力していません。

チェック：問いかけが生徒自身に考えさせる形になっているか、言い方が冷たくないかを確かめます。生徒の作品を個別にAIに入力する場合は、氏名を消し、学校・自治体のガイドラインで認められているかを必ず確認します。

文法導入でのつまずきを予想する

中学2年生に、比較級（-er than、more 〜 than）を導入します。
1. 日本語を母語とする中学生がつまずきやすい点を5つ
2. それぞれについて、気付かせるための短い活動のアイデア（5分程度）
3. 導入で先生が話すオーラル・イントロダクションの例（やさしい英語で6文程度。身近な話題で）
を示してください。

チェック：つまずきの予想が自分のクラスの実態に合っているかを確かめ、活動は使う教科書の単元や既習事項に合わせて直します。英文の例が自然で、学年に合う語で書かれているかも確かめます。

コミュニケーション活動の場面・目的を設定する

中学1年生が can を使って、自分や友達のできることを伝え合うコミュニケーション活動を考えています。
「だれに」「何のために」伝えるのかがはっきりした場面設定を3つ提案してください。
各場面について、活動の流れ（15分程度）、生徒が使う表現の例、活動のあとに振り返る問いを示してください。
実在の人物や、特定の家庭の状況を前提にしない場面にしてください。

チェック：生徒にとって本当に伝えたいと思える場面か、できないことを言わされて傷つく生徒がいないかを考え、クラスの実態に合わせて選び直します。

生徒の理解に応じたクラスルーム・イングリッシュを用意する

中学1年生の4月の授業で、次の指示を英語で伝えたいと思います。
・ペアになって、机を向かい合わせにする
・じゃんけんで勝った人から質問する
・1分たったら、相手を替える
・メモは見ないで話す
それぞれについて、
1. やさしい英語の言い方（短く、ジェスチャーと一緒に使えるもの）
2. 少し慣れてきたころの言い方
3. 伝わらなかったときの言い換え
を示してください。

チェック：実際に言ってみて、生徒が聞き取れる長さか、ジェスチャーと組み合わせられるかを確かめます。小学校で慣れ親しんだ表現とつながるかも見直します。

既習語を繰り返す復習クイズをつくる

次の語は、中学2年生がこれまでに習った語です。【ここに既習語を10〜15語並べる】
これらの語だけを使って（ほかに使う語は中学1年生までの基本語に限る）、次のものを作ってください。
1. 絵や動作で答えられる、英語のなぞなぞを5問（例：It is a place. You can borrow books there.）
2. 2人で言い合える、30秒の会話の例を2つ

3. 語を思い出して書く穴うめ問題を5問（答えは最後にまとめて示す）
新しい語は使わないでください。使った場合は、その語を一覧にして示してください。

チェック：既習語の範囲を超えた語が入っていないか、なぞなぞの答えが一つに決まるか、英語が自然かを確かめます。答えを先に見せない形で使い、日をあけて繰り返します。

出典：中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省資料。告示前の方向性で、今後変わることがあります。｜原田英語.com 次期指導要領ナビ https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/（2026年11月4日 版）